

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6 年 3 月 18 日

事業所名 ぱすてるびいす

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	8	0	個室スペース完備	個室の使い方。 →その日の活動やご利用者様の様子により、個室の使い方をミーティングで決定する。
	2	職員の配置数は適切である	6	2		基準は満たしていても実際の業務に人数的余裕があるかどうかは別である為、業務の内容を見直す必要はある。 →連絡ノートのデジタル化など、支援時間帯に手を取られないための対策を検討する。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	8	0	今年度移転をし、バリアフリーな空間になっている。	充分とは言えない部分もある。(玄間に段差あり) →車いす用スロープは裏手から入っていただく形になる。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	8	0	支援会議等、意見を出し合う場がある。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	8	0	アンケートなどで頂いた意見をもとに親子活動等、次年度の計画を検討している。	・連絡帳やそれ以外のツールの活用、親子行事の企画開催などで保護者の声が聞ける機会がもっとあれば良いとも感じる。 →保護者説明会・交流会の企画などもっと活発に行なっていく。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	8	0	ぱすてる新聞、ホームページで公表している。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	4	4		未実施 →実施に向けた体制作りを法人として検討中。
適切な支援の提供	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	8	0	・毎月、権利擁護研修や動画研修など研修を行っている。 ・サボカシ勉強会をしている。	・外部講師等を招いた法人全体の研修の機会があると良い。 →現在は内部職員による講師ではあるが、法人内研修も随時実施しているので、まずは参加機会を増やす。外部研修についてはキャリアパスに基づいた研修計画があり、必要な研修を随時受講するしくみがある。 ・勉強会后、意見交換などができると思う。 →勉強会の内容と流れを改善して最後に意見交換の場を設ける。
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	8	0	・保護者と年2回の面談、日々の保護者の方とのやり取りで、ニーズや課題の把握を行い、計画に反映している。 ・定期的なモニタリング会議を行っている。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	7	1		モニタリング会議等でサポートブックを開く、加筆修正していくことを職員全員の共通認識にする。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	8	0	・季節も感じられるような活動を考えている。 ・ベースを作成してから職員の意見を聞き、取り入れている。	個人に任せている部分が多く、チームで行う必要がある。 →月1回、活動案についての会議を設ける。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	8	0	児童や保護者の声を聴いて、それが活動プログラムに反映される体制が出来ている。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	7	1	・休日では、平日にできないような活動を取り入れている。 ・おやつや買い物が新しくなったのは良いと思う。	支援計画に基づいて支援を行っている。平日は個別での活動を中心に、長期休暇や休日は外出や調理等、集団での活動を実施している。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	8	0		
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	8	0	朝礼、午後のミーティングで、振り返りを行う。その日の活動については、担当が活動案を元に打ち合わせを行っている。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	7	1	・その日の気づきや問題となったこと、連絡帳や学校からの情報を共有する時間がある。 ・その日に話せなかったことは、翌日のミーティングで申し送りしている。	個人間での会話ははあるが充分ではない。 →ヒヤリハットや特別留意すべき事項を書くための用紙を設けて、ミーティングで共有したりあとで見返したりできるように始めている。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	8	0		支援計画に基づいた記録と、日々の記録を残している。
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	8	0		計画が遂行されているかを、毎月振り返り、半年に一回職員全員で見直しをしている。	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている ・自立支援と日常生活の充実のための活動 ・創作活動 ・地域交流の機会の提供 ・余暇の提供	7	1	基本活動を組み合わせ、支援をしている。	ガイドラインやマニュアルなどを共通言語にできるようにするため、次年度から勉強会を実施する。	
20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	8	0	会議は基本児発管が参加。		

関係機関や保護者との連携	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	8	0	学校によっては、下校時刻をお知らせ頂いている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	6	2	医療的ケア児の受入なし	該当なし
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	7	1	中高生対象の事業所の為なし	該当なし
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	8	0	求められれば提供できるようにはしている。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	6	2		外部研修は受講しているが児童発達支援の専門機関のものは近年受講していないので、研修計画に取り入れる。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	8	0	児童クラブとのハロウィン交流会を継続している。	
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	5	3	自立支援協議会自体が何年も開催されていないと聞いたことがある。それにかわるものがある必要なら参加すべきだと思う。	法人として地域福祉計画に参画するなど、地域との接点を活かしながら自立支援に取り組む。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達状況や課題について共通理解を持っている	8	0	お迎えや送り時、その日の様子等、可能な限りお伝えするようにしている。	児童の発達状況や課題、家庭や学校での様子や進路など共通理解があるかどうかは分からない。学校や相談員との連携がもっと必要だと思う。一ケア会議だけでなく、関係機関とも必要に応じて気づきを共有し、統一した支援ができるよう、協力体制をつくっていく。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	6	2	面談時に要望を伺ったり、困った事をお聞きした時には、職員間で話し合い、お答えする事もある。	ペアレントトレーニングの基礎的な部分について職員全体で学びの機会を設ける。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	8	0	説明は適宜行っている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	8	0	面談や、ご自宅へ送った際にお話ができる時にさせてもらっている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	7	1	親子活動の機会を設け、交流の場の一環とすることができた。	来年度は保護者交流の場を実施できるように計画を立てる。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	8	0	苦情解決窓口、苦情解決責任者、第三者委員を設置。苦情があった場合は機関紙つばきにて公表。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	8	0	ホームページ、機関紙、Facebook、Instagram他、内部ではメール配信システム「マチコミ」や、ばすてる新聞など。	ばすてる新聞も、紙面以外の方法でも発信できたらよいと思う。 →連絡帳のデジタル化を検討する中で、同じように紙媒体に依らない発信ができるか検討する。
	35	個人情報に十分注意している	8	0		
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	8	0	児童の特性に合わせたコミュニケーションをとっている	
非常時等の対応	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	6	2	(感染症等のため、数年開催されていないが)サマーフェスタ等、行っている。	・地域交流の必要性など職員全体で改めて共有する。 ・招待は難しいが、様々な形で地域と交わるような活動を行っているため、それらを一層活性化していく。
	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	7	1	各種マニュアルがあり、面談や契約時に、内容をお伝えしている。	充分でない。法人のマニュアルの全てがばすてるの児童、建屋等全てに当てはまるものでないと思うしそれを検証できていない。 →移転に伴い、改めて内容を吟味し、放デイ事業所に即したものにとのえて活用する。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7	1	法人内の訓練に参加。	職員を対象とした訓練は行っているが、児童を対象としたものは実施できていない。 →単独訓練を次年度早い段階で実施する。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	8	0	・法人内虐待防止委員会を設置。 ・事業所内でも月1回権利擁護会議を行い意見交換ができています。 ・チェックリストを毎月行っている。	法人全体で意見交換の場があれば尚良いと感じる。 →法人の虐待防止・権利擁護委員会にて検討してもらおう。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	8	0	保護者や相談員と相談し、必要性のある時には、個別支援計画に記載している。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	7	1	該当児童なし。	該当なし(ある場合は保護者を通じて対応の仕方を指示いただいている)
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7	1	いつもと違う事があれば、職員間で情報を共有し事故防止に努めている。	ヒヤリハットの報告提出を含めて上手く機能していない。 →ヒヤリハットや特別留意すべき事項を書くための用紙を設けて、ミーティングで共有したりあとで見返したりできるように始めている。それらに基づいた事例も新たに付け加え、確認できるようにする。